石川県小松市大杉町方言の待遇表現

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00000245

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



石川県小松市大杉町方言の待遇表現

加藤　和夫

Ⅰ．はじめに

（1）調査対象地：小松市は石川県の南部に位置し北を能美郡根上町・寺井町・辰口町、東を石川郡鳥越村・尾口村・白峰村、西を江沼郡山中町・加賀市、南を福井県勝山市に囲まれている。東南部の山間地域から中央の平野部、さらには日本海に面する海岸部と、変化に富んだ地勢を見せる。南北に国道８号線、それと並行して海岸沿いに北陸自動車道が走り、また県内唯一の空港である小松空港を擁し、石川県の空の玄関としても重要な役目を果たしている。面積は371.13平方キロメートル、人口は108,702人（1997年６月現在）である。調査地の大杉町は、市内東南部を流れる大杉谷川の最上流部、市中心部から車で30～40分ほどの山間に位置する。今回の話者の在住する大杉中町のほか、上流部の大杉上町・大杉本町、下流部の下大杉町の４集落からなり、方言的には市内でも古態性をよく残している地域である。

（2）調査年月日：１９９６年１０月１日

（3）話者：能登君子氏　１９１１(明治44)年生まれ（８５歳）　農業

（4）調査者・調査場所：加藤和夫・下大杉町生活改善センターの一室にて面接調査。

（5）調査方法：当該調査票による質問調査。

（6）表記方法その他：調査票によって得られた方言事象は表音的片仮名表記で記す。当該方言（老年層）では語中・語尾のガ行子音は鼻濁音となるので、語頭の破裂音（ガ・ギ・グ・ゲ・ゴ）と区別してカ゜・キ゜・ク゜・ケ゜・コ゜で表記する。アクセントの記載は省略した。ある調査項目に対して複数の回答が得られた場合はスラッシュ（／）を入れて示す。また、必要に応じて＊を付して注記（話者の説明は＜　＞に入れて）を加えた。

Ⅱ．調査結果

１．尊敬表現

１－１　対者敬語

（1）A　お前は　ワレ

元気かね　ゲンキナカ／ソクサイナカナー　＊ソクサイは「息災」の意。

B　あなたは　オマエ

元気かね　ゲンキナカイノー

C　あなたは　オマエ

元気かね　ゲンキナカイノー

（2）A　あしたは家に居るか　アシタ　イエニ　オルカ

B　あしたは家に居るか　アシタ　イエニ　ゴザルカ／アシタ　イエニ　ゴザルカイノー

C　あしたは家に居られますか　アシタ　イエニ　ゴザルカイノー

(3) A　あした行くか　アシタ　イクカ

B　あした行きますか　アシタ　イカッシャルカイノー

C　あした行きますか　アシタ　イカッシャルカイノー

(4) A　温泉に行かないか　ユー　ハインニ　イカンカ

B　温泉に行かれませんか　ユー　ハインニ　イカッシャランカイノー

C　温泉に行かれませんか　ユー　ハインニ　イカッシャランカイノー

(5) A　しますか　シルンジェーノー

B　されますか　サッシャルンジェーノー

(6) A　見ましたか　ミサッシャッタカ

B　見ましたか　ミサッシャッタカ

(7) A　ゆうべは何時に寝ましたか　ヨンベ　ナンジニ　ネサッシャッタイノー

B　ゆうべは何時に寝ましたか　ヨンベ　ナンジニ　ネサッシャッタイノー

(8) A　どこに行っているか　ドコ　イクンジャイ

B　どこに行っていますか　ドコ　イカッシャルイノー

C　どこに行っていますか　ドコ　イカッシャルイノー

(9) A　どうぞ食べてくれ　クッテクレーヤ

B　どうぞ食べてください　ドーゾ　クッテクダサイ

C　どうぞ食べてください　ドーゾ　クッテクダサイ

(10) A　その写真を私に見せてくれないか　ソレ　ミシテゲー　＊＜同じ大杉町でも上(かみ)の２集落（大杉本町・大杉上町）では下(しも)の２集落（大杉中町・下大杉町）のミシテゲーに対してミシテクエと言う。＞

B　その写真を私に見せてくださいませんか　ソレ　ミシテガッシェンデ　＊＜上の２集落では、ミシテクヮッシェンデと言う。＞

C　その写真を私に見せてくださいませんか　ソレ　ミシテガッシェンデ　＊＜上の２集落では、ミシテクヮッシェンデと言う。＞

１－２　第三者敬語

(11) A　あしたは家に居るだろう　アシタワ　イエニ　オルヤロー

B　あしたは家に居るだろう　アシタワ　イエニ　ゴザルヤロー

C　あしたは家におられるでしょう　アシタワ　イエニ　ゴザルヤロー

(12) A　居なかった　オラナンダ

B　居なかった　ゴザラナンダ

C　居なかった　ゴザラナンダ

(13) A　そう言った　ソー　ユーテゴザッタ

B　そう言った　ソー　ユーテゴザッタ

(14) A　今そこに行っていた　イマ　アソコニ　イットッタヨ

B　今そこに行っておられた　イマ　アソコニ　イッテゴザッタヨ

C　今そこに行っておられた　イマ　アソコニ　イッテゴザッタヨ

(15) A　来ている　キトル

B　来ている　キテゴザル

C　来ている　キテゴザル

(16) A　仕事をしている　シコ゜ト　シテゴザル

B　仕事をしている　シコ゜ト　シテゴザル

(17) A　見せてもらった　ミシテモッタ／ミシテゲータ　＊ミシテモッタはミシテモロタからの変化形。ミシテゲータは「見せてくれた」の意。＜上の２集落ではミシテクエタと言う。＞

B　見せてもらった　ミシテモッタ／ミシテガッシャッタ　＊ミシテガッシャッタは「見せてくださった」の意。＜上の２集落ではミシテクヮッシャッタと言う。＞

C　見せてもらった　ミシテモッタ／ミシテガッシャッタ

(18) A　見せてくれた　ミシテゲータ　＊＜上の２集落ではミシテクエタと言う。＞

B　見せてくれた　ミシテガッシャッタ　＊＜上の２集落ではミシテクヮッシャッタと言う。＞

C　見せてくれた　ミシテガッシャッタ

(19) A　私にくださった　ウラニ　ガッシャッタ　＊ウラは南加賀地方から福井県嶺北地方にかけて広く分布する自称代名詞。＜上の２集落ではガッシャッタにあたる部分をクヮッシャッタと言う。＞

B　私にくださった　ウラニ　ガッシャッタ

(20) A　いただいた　モッタ　＊モッタはモロタ［morota］からの変化形（［morta］→［motta］）。

B　いただいた　モッタ

２．謙譲表現

２－１　謙譲表現

(21) A　私も　ウラモ

B　私も　ウラモ

C　私も　ウラモ

(22) A　十分に食べました　デカイコト　ヨバレタ　＊ヨバレタのヨバレル（動詞・下一）は「いただく」の意。

B　十分に食べました　デカイコト　ヨバレタ

(23) A　持ちましょう　モッテヤルワンデ　＊ヤルワンデの～ワンデは、謙譲の意味を担うものではなく、共通語で言えば「です・ます」にあたる丁寧語と言うべきもののようだ。

B　持ちましょう　モッテヤルワンデ

(24) A　待たせたね　エレ　マットッテモッタノー　＊エレはエライからの変化で「えらく・ひどく」の意。マットッテモッタノーは「待っていてもらったね」の意。

B　お待たせしました　エレ　マットッテモッタノー

C　お待たせしました　ナカ゜イコト　マットッテモッタノー

(25) A　駅で待っているよ　エキデ　マットル

B　駅で待っていますよ　エキデ　マットルワンデ

C　駅で待っていますよ　エキデ　マットルワンデ

(26) A　言ってくれ　ユートイテクレ　＊「言っておいてくれ」の意。

B　言ってくれ　ユートイテガッシェ　＊「言っておいてください」の意。＜上の2集落では（ユートイテ）クヮッシェと言う。＞

C　言ってくれ　ユートイテガッシェ　＊＜上の2集落では（ユートイテ）クヮッシェと言う。＞

(27) A　これをやろう　コレ　ヤルワレ　＊＜何か食べ物を勧める場合ならコレ　クッテガッシェ（これ食ってください）のように言う。＞

B　これをあげましょう　コレ　ヤルワンデ　＊＜何か食べ物を勧める場合ならコレ　タベテガッシェ（これ食べてください）のように言う。＞

C　これをあげましょう　コレ　ヤルワンデ　＊＜何か食べ物を勧める場合ならコレ　タベテガッシェ（これ食べてください）のように言う。＞

2－2　身内敬語

(28) A　買ってやった　コーテヤッタ

B　買ってやった　コーテヤッタ

C　買ってやった　コーテヤッタ

(29) A　主人はもう帰っている　ウチノ　オトーサン　モー　モドッテゴザル　＊＜「主人」にあたる部分はオトーサンのほかに場合によって、マーとかオッツァとも。＞

B　主人はもう帰っています　ウチノ　オトーサン　モー　カエッテゴザル

3．丁寧表現

(30) A　行くよ　イクワイヤ

B　行きます　イクワンデ　＊先に（23）のところでも説明したとおり、当該方言の丁寧表現として特徴的なものに、文末の「です・ます」にあたると思われる「～ワンデ」がある。目上の人に丁寧の意を添えるために多用されるようだ。

(31) A　寒いね　サムイワナー

B　寒いね　サムイワンデ

C　寒いですね　サムイワンデ

(32) A　居るよ　オルヨ

B　居ます　オルワイノー

(33) A　よかったねえ　ヨカッタナー

B　よかったですねえ　ヨカッタノー

C　よかったですねえ　ヨカッタノー

(34) A　そうか　ソーカ／ソウーカイヤ／ホーカイヤ

B　そうですか　ソーカイノー

C　そうですか　ソーカイノー

4．人間関係に応じた待遇表現

4－1　特定表現の待遇表現

(35)（その角を）曲がって右へ行くと～　マカ゜ッテ　ミキ゜エ　イカッシャルトノー

(36) とんでもない　ダラミタイナ　＊ダラは「馬鹿」の意。したがって「馬鹿みたいな」の意。

4－2　多人数場面の待遇表現

(37) 村の寄り合いで世話役を頼まれ引き受けるときの言い方

ウラ　サシテモラウカ　＊「私させてもらうか」の意。

(38) 今度の旅行には参加者が少ないので、皆さん参加してほしい（村の会合での挨拶）

イッテクレルヒトカ゜　スクナイサカイ　ガンバッテ　イッテクレイヤ／イッテゲー　＊イッテクレイヤ（行ってくれよ）よりイッテゲー（行ってください）の方が丁寧な言い方。

4－3　位相による待遇表現

(39) A　朝９時頃、人に会ったときの挨拶

1．オハヨーゴザイマス
2．オハヨーゴザイマス
3．オハヨーゴザイマス
4．オハヨーゴザイマス
5．ジーチャン　エライ　ハヤイワンデ
6．バーチャン　エライ　ハヤイワンデ
7．オハヨーゴザイマス
8．オハヨーゴザイマス
9．ワレ　アサ　ハヨーカラ　ドコ　イクンジャイ
10．ワレ　アサ　ハヨーカラ　ドコ　イクンジャイ
11．ワレ　アサ　ハヨーカラ　ドコ　イクンジャイ
12．ワレ　アサ　ハヨーカラ　ドコ　イクンジャイ
13．ワレ　ハヤイゼー　ドコ　イクンジャイ
14．ワレ　ハヤイゼー　ドコ　イクンジャイ

B　どこへ行くのか

1．ドコ　イカッシャルンジャイノー
2．ドコ　イカッシャルンジャイノー
3．ドコ　イカッシャルンジャイノー
4．ドコ　イカッシャルンジャイノー
5．ドコ　イカッシャルンジャイノー
6．ドコ　イカッシャルンジャイノー
7．ドコ　イカッシャルンジャイノー
8．ドコ　イカッシャルンジャイノー
9．ワレ　ドコ　イクンジャイノー
10．ワレ　ドコ　イクンジャイノー
11．ワレ　ドコ　イクンジャイノー
12．ワレ　ドコ　イクンジャイノー
13．ドコ　イクンジャイヤー
14．ドコ　イクンジャイヤー

Ⅲ．総括（まとめ）

以上、今回の調査結果の範囲で、「尊敬表現」「謙譲表現」「丁寧表現」の順に、小松市大杉町方言の待遇表現の特色についてまとめておく。

（1）尊敬表現

対称代名詞については、相手により「ワレ」と「オマエ」の２つが使い分けられており、

親しい同輩からそれ以下の相手には「ワレ」、同輩以上の目上には「オマエ」となる。現代日本語（共通語）の待遇表現体系では、「オマエ」は同輩から下の相手にしか使用しない対称代名詞と考えられるが、当該方言では「オマエ」が本来持っていた高い待遇価値を未だに残している点が注目される。当該方言では、このほかの対称代名詞にアンタもある。待遇的にはワレよりも上、オマエよりも下になる。これに似た状況は、東国方言の古態性をよく残しているとされる伊豆七島南端の八丈島方言にも見られ、八丈島の老年層方言では、「お前」から変化したと考えられる「オメー」が「アンタ」や共通語的な「オマエ」よりも高い待遇価値をもって目上の相手に使用される。

「元気かね」にあたる表現では、親しい友人に対して「ゲンキナカ」および「元気」の意の古い言い方である「ソクサイ（息災）」を使った「ソクサイナカナー」が聞かれた。後者の方がやや丁寧な言い方であろう。一方、年長および目上の人には「ゲンキナカイノー」となる。文末部に注目した場合「～カ(イ)ナー」よりも「～カイノー」の方が丁寧な表現となるようだ。

「居るか」にあたる表現では、親しい友人に対する「オルカ」に対して、目上の相手に「ゴザルカ」「ゴザルカイノー」が用いられている。「居る」にあたる尊敬の動詞「ゴザル」は、加賀地方の方言では白山麓の白峰村方言にも聞かれる古い形式で、小松市内でも平野部では聞かれないものである。「ゴザルカ」よりも「ゴザルカイノー」がより丁寧な表現であることは言うまでもない。「いらっしゃる」「～ていらっしゃる」にあたる尊敬表現としては「オイデル」「～テオイデル」もよく用いられているようだ。また、これとの関連で、人が家を訪ねて来て夫の所在を尋ねられ「(主人は)居る」と答える場合の言い方については、「オラッシャル」のように尊敬の助動詞「～ッシャル(～サッシャル)」を用いている。現代日本語の敬語使用では身内の者に尊敬表現を用いるのは誤りとされているが、当該方言でのこのような用法は、かつて近畿地方を中心とした西日本方言に広く存在していたと言われる身内尊敬用法の名残とも言えるものであろう。

「行くか」にあたる表現では、親しい友人に対する「イクカ」に対して、目上の相手に「イカッシャルカイノー」が用いられている。「イカッシャルカイノー」の「～ッシャル」は五段活用動詞の未然形相当の形に接続して尊敬の意味を表す敬語助動詞である。小松市の平野部を含め金沢方言を中心とした加賀方言に聞かれる「行くマサル・行くマッシャル」等で聞かれる「～マサル・～マッシャル」なども同じ尊敬の敬語助動詞である。当該方言を含む小松市大杉谷川流域では、「～ッシャル」（一段型活用の動詞には「見サッシャル」「寝サッシャル」のように「～サッシャル」の形で接続）が広く使用されている。一方、当該方言を含む大杉谷川上流域では聞かれない「～マッシャル」が下流域には分布し、「～ッシャル(～サッシャル)」よりも丁寧な敬語助動詞として併用されている。例えば下流域の波佐谷町（はさだにまち）老年層方言における、道ですれちがった相手（５つの対人設定）に対する「どこに行くのか」にあたる表現形式は次のようである。初対面の観光客に対する共通語

的表現を除いて、下にある相手に対する表現形式ほど待遇度が高くなる。

①近所の年下の知り合いに少しぞんざいに　ドコ　イケーン
②仲のよい友達に　ドコ　イカンヤ
③近所の年上の人にやや丁寧に　ドコ　イカッシャルンカ
　ドコ　イカッシャルンヤ
④土地の目上の人に非常に丁寧に　ドコ　イクマッシャルカ
⑤初対面の観光客に　ドコ　イカレルンデスカ

次に、話者の説明によれば、当該方言では「～てくれ」「～てくれないか」にあたる依頼表現に、上(かみ)の集落（大杉上町・大杉本町）と下(しも)の集落（大杉中町・大杉下町）で異なる表現が使用されると言う。この種の表現で、このような狭い範囲に地域差が見られるのは興味深い。具体的には、親しい友人などに対しては、話者の住む下の集落では「～テゲー」のような言い方が、上の集落では「～テクエ」のような言い方がされる。それが、近所の年長の人や土地の目上の人に丁寧に言う場合は、それぞれに対応する「～テゲッシェンデ」(大杉下町)、「～テガッシェンデ」(大杉中町)、「～テクヮッシェンデ」(大杉本町)となる。これらのうち、「～テクエ」の「クエ」は「クレ［kure］(呉れ)」の［r］が落ちた形であろうし、「～テゲー」の「ゲー」はその［kue］の語頭が濁音化し、さらに［-ue］が［-e:］と変化したものであろう。また、それらの丁寧な形である「～テクヮッシェ(ンデ)」のクヮ［kwa］がグヮ、さらにガあるいはゲと変化したのが「～テガッシェ(ンデ)」「～テゲッシェ(ンデ)」であろう。今回の調査結果からは，このような補助動詞としての「～てくれる」、あるいは本動詞としての「くれる」にあたる表現形として、「(友達が本を)見せてくれた」の意の「ミシテクエタ(大杉本町)・ミシテゲータ(大杉中町)」、「(近所の年長の人や土地の目上の人が本を)見せてくれた」の意の「ミシテクヮッシャッタ(大杉本町)・ミシテガッシャッタ(大杉中町)」、「(近所の年長の人や土地の目上の人が私に)くれた」の意の「ガッシャッタ(大杉中町)」、「(近所の年長の人や土地の目上の人に～と)言ってくれ」の意の「ユートイテガッシェ(大杉中町)」などが確認できる。

第三者に対する敬語表現については、話題の人が目上の人であった場合には「オル」に対して「ゴザル」といった尊敬表現が使われている。「ゴザル」は補助動詞「～テゴザル(～ていらっしゃる)」の形でも第三者敬語としてよく用いられている。

(2) 謙譲表現

「私」にあたる自称代名詞には、相手に関係なく「ウラ」が用いられている。また、例えば「(自分が)元気だよ」にあたる表現は、土地の目上の人に対して「タッシャデ　オルワンデ」が用いられている。この「～ワンデ」という形は謙譲の意味を担うものではなく、共通語で言えば「です・ます」にあたる丁寧表現と言うべきもののようだ。「～ワンデ」は、近所の年長の人や土地の目上の人に「(その荷物は)私が持ちましょう」と言うときの「ウラ　モッテヤルワンデ(持ってやりましょう)」、相手に「駅で待っていますよ」と言

うときの「エキデ　マットルワンデ」、土地の目上の人に「あした行くか」と聞かれて「行きます」と答えるときの「イクワンデ」、近所の年長の人や土地の目上の人に「今日は寒いね」と言うときの「サムイワンデ（寒いですね）」のような形で確認できる。

（３）丁寧表現

謙譲表現でも触れたとおり、当該方言の特徴的な丁寧表現として、文末の「です・ます」にあたると思われる「～ワンデ」がある。先の用例でも見たように、目上の人に丁寧の意を添えるために多用されているようだ。文末助詞に関しては、「ナー」「ヤー」と「ノー」に待遇的な使い分けがあり、「ナー」「ヤー」は同輩の親しい相手に、「ノー」は年長や目上の相手に用いられている。

【参考文献】

加藤和夫(1997.3)「石川県大杉谷川流域の方言」（『小松市立博物館紀要』第33号　小松市立博物館　p.1-51）

（かとう　かずお　金沢大学教育学部）